

湖東・湖北

毎月第3日曜日発行

2022 5月号

Vol.150

毎日ナビ

毎日新聞湖北ブロック会 協賛

毎日新聞湖北ブロック会事務局 (毎日新聞長浜販売所)

滋賀県長浜市小堀町 347-5 TEL.0749-62-0954

制作 / オフィスいしやま (毎日新聞大津販売)

湖北



5年ぶりに全面刷新された長浜市観光パンフレット

長浜市は総合観光パンフレットを5年ぶりに全面リニューアルした。体験型観光推進のため、人物を含めた写真を多用し、旅行に来た際の雰囲気を感じることができる。表紙を含めてオールカラーA4判20ページで、夕景や紅葉など美しい写真も満載。「黒壁・木之本宿まちなみ」 「継承の魂が息づく伝統と祈りの文化」 「戦国ロマンの地を巡る」 「満腹・満足ながはまグルメ」など8テーマに分けて

長浜の魅力を紹介している。更にアプリ不要で湖上タクシーや長浜盆梅展などを全方位で見渡せる「360°VR」のQRコードも6カ所分掲載している。地元の魅力を再発見するために市民にも見てもらい、マイクロツーリズム推進も図る。日本語版4万5000部、英語版5000部作成。宿泊・観光施設に設置し、旅行会社などにも送付する。【長浜通信部・長谷川隆広】

長浜

観光パンフレットがリニューアル 体験型の旅行気分味わって

湖東

彦根

街の清掃活動でリハビリ 介護施設のお年寄り

彦根市馬場1の同市北デイサービスセンター(萩原邦子所長)で今春から利用者による地域清掃活動が始まった。体操、手芸、調理といった従来からのリハビリ訓練だけでなく、街頭でボランティアもしてもらい、利用者の「自立」と「尊厳」につなげようという試みだ。

2021年度のセンター利用者のはべ6049人。うち6割超が中度以上の要介護認定を受けているが、車椅子や歩行器を使って清掃に取り組みお年寄りたちもいる。「きれいになると気持ちがいい」「外を歩く機会にもなる」と参加者の評判は上々だという。萩原所長は「社会参加によって認知症やうつ病のリスクも低下する」といわれる。好天の日には体調に配慮しながら続けていきたい」と話す。



街頭で清掃に取り組み高齢者。彦根市北デイサービスセンター提供

旅情誘う鉄道写真

清水薫さん追悼作品展

長浜



旅情漂う作品が並ぶ鉄道写真展 清水薫さん追悼作品展

2020年4月に亡くなった草津市出身の鉄道写真家・清水薫さんの三回忌追悼企画展が長浜市北船町の長浜鉄道スクエアで開かれている。6月30日まで。清水さんは大手電機メーカー社員から鉄道写真家に転身。雑誌やカレンダーの鉄道写真を撮影し、写真講座の講師も務めるなど活躍した。企画展では、北陸本線を中心とした写真18点や愛用のカメラバッグ、時刻表などが展示されている。このうち2003年4月に撮影された「春爛漫」は、長浜―田村駅間にある一面の菜の花畑の向こうを特急「しらすぎ」が走る瞬間を鮮やかに切り取った。2011年7月の「盛夏」は近江塩津―新足田(福井県)駅間で撮影され、夏空の青と草木の緑を大きく写し込み、そこを通る寝台特急「トワイライトエクスプレス」から旅情漂う作品となっている。【長浜通信部・長谷川隆広】

市美術展受賞作を動画で

コロナ禍を機に5年分

彦根

彦根市美術展覧会の近年5回分の受賞作が計約30分の動画になり、市ホームページ(<https://www.city.hiko.ne.jp/>)で紹介されている。展覧会は毎年9月に開かれてきたが、2020、21両年度は新型コロナウイルスの影響で中止となった。しかし、過去の作品にも目を向けてもらおうと15、19年度の受賞作を「アーカイブス動画」としてまとめた。「彦根市民の歌」をBGMに6部門(日本画、洋画、彫刻、美術工芸、書、写真)を鑑賞できる。日本画部門は19年度市展賞「朝陽のカップドキア」(松居直子さん作)から映像が始まる。岩が林立する街の上に



動画に登場する長豊子さんの洋画

まる。岩が林立する街の上に気球が浮かぶ不思議な光景を描いている。洋画部門では19年度市展賞・県芸術文化祭奨励賞の「想い出のRadio」(長豊子さん作)が登場する。懐かしい真空管ラジオの内部をぬくもりのあるタッチで表現している。【彦根通信部・伊藤信司】